

導入事例

# 高精細なクオリティに圧倒的な生産性。こだわりの「写真品質」と「短納期対応」が高い次元で実現し、顧客満足度がさらに高まった。

## 株式会社 JVIS

**DATA** 写真スタジオを全国展開している株式会社スタジオアリスの写真製品生産部門として2005年5月に設立。2007年にサインディスプレイ事業を立ち上げ、店舗装飾や看板などの製作を開始。現在ではスタジオアリス以外にもさまざまな分野のクライアントから、大型屋外広告、POP、店舗装飾、交通広告などの製作を幅広く受注し、フォトプリント事業のノウハウを活かした美しい写真品質と、多種多様なメディアへの柔軟な対応で高い評価を得ている。

- 代表者/細田 隆太郎氏
- 設立/2005年5月2日
- 所在地/東京都八王子市叶谷町1055(本社)  
大阪府堺市堺区南島町2-74(大阪支社)
- URL/https://www.jvis.co.jp



「Acuity Ultra の導入で、品質とスピードをより高い次元で両立させることが可能になりました。今後は、この強みを活かし、サインディスプレイ業界だけでなくとどまらず幅広い分野に出力サービスを提供していきたいと考えています」

専務取締役 大阪支社長 兼 サイン事業部長 熊木 昭二氏

超高画質・高速UVインクジェットロールプリンター

# Acuity Ultra

### 導入までの経緯は？

**熊木専務** 当社のサインディスプレイ事業は、切手サイズのものから大型サインまで、あらゆる出力ニーズへの対応を目指しており、5m幅のプリンターは設立当初から導入していました。同業他社さんで5m機を持っているところは少なく、これは大きな差別化要素の一つになっています。また、私どもはもともとフォトプリント事業からスタートしているため、品質に対して強いこだわりを持っており、サインディスプレイにおいても「写真品質」を追求しています。一方で、最近は納期の厳しい仕事が多くなり、スピードも要求されるようになってきました。もちろん、短納期だからと言って品質を落とすわけにはいきません。当社は「QHDO=Quality High Delivery Optimum」、つまり、最高品質のものを最適な納期でお届けするというのを心掛けています。

2年ほど前、オリンピックなどの需要も見据えた生産体制強化のため、2台ある5m機の1台を更新することになり、品質とスピードをより高いレベルで両立できる機種を検討していたところ、FFGSさんからご提案いただいたのがAcuity Ultra

でした。まだ正式発売前ではありましたが、高精細な出力品質と、他の5m機に比べて格段に速い出力スピードに、新戦力としての可能性を感じ、いち早く導入を決定しました。

### 主な用途、導入メリットは？

**平原氏** UVインクならではの耐候性の高さを活かして、屋外に掲示するビルボードや垂れ幕などに多く活用しています。飲食店の店頭に掲出するメニュー表をターポリンで製作するといったケースもあります。さまざまなメディアに対応でき、幅広い用途に使えるのが魅力ですね。とくに、布系のメディアにも高品質に出力できるところが大きなメリットだと感じています。Acuity UltraはUVランプの照射力が他のUV機に比べて強く、クロス地などに出力した場合でもインクが瞬時に硬化するため、滲みもなく、鮮やかな色が再現できるのです。

**岩下部長** 品質面では、人物写真を使った出力物などでも、画像再現性の高さを実感しています。人肌や微妙なグラデーションの再現が非常に滑らかで、ザラつきもありません。これは、ウィンドウに貼る広告などのように比較的近くで見られるグラフィックでは重要なポイントです。また、文字の再現性



「この出力品質の高さは、他のUV機と比べても一段上ですね。制作側としてはお客さまに自信を持って提供できますし、実際にお客さまにもご満足いただいています。リピートの受注が多いということが、その証ではないかと思っています」

サイン事業部 サイン生産部 部長 岩下 博紀氏



「当社では膨大な種類のメディアを用意し、お客さまの要望に応じて使い分けていますが、どのメディアに出力しても狙った色が出せるよう、また、リピートの仕事でも色がブレないように、独自のカラーマネージメント環境を構築しています」

サイン事業部 サイン生産部 制作グループ 平原 克志氏

にも優れているので、飲食店のメニュー表のように可読性が重視されるツールにも安心して活用できますね。高生産性を維持しながらここまで高い品質を発揮できるのは、Acuity Ultraだけです。

**平原氏** もう一つ、現場で感じているメリットとして、メディア搬送の安定性が挙げられます。搬送ローラーのグリップ力が弱いと、出力途中でメディアが滑ったり、シワになったりしてしまうのですが、Acuity Ultraはローラーがしっかりしているので、メディアにきちんとテンションをかけた状態で生産を続けることができ、描画の精度も最後まで確実に維持できます。

### 今後の展開は？

**熊木専務** 写真品質とスピード対応という強みをさらに伸ばすとともに、販路の拡大にも力を入れていきたいと考えています。いままでは、主にサインディスプレイ業界の中で営業展開してきましたが、今後は他の業界にもアプローチを図り、出力業務をより幅広くお手伝いさせていただきたい。さまざまな分野のお客さまの、出力に関するお困りごとを一緒に解決していける存在、「JVISに相談すれば何とかなる」と思っていた



毎時236㎡という高生産性により、短納期・大ボリュームの仕事で威力を発揮するAcuity Ultra。



JVIS本社の壁面に掲出された大判ポスター。Acuity Ultraの高精細な再現性が活かされている。

だけの存在を目指しています。ですから、Acuity Ultraをはじめとする当社の設備も、我々だけが使うのではなく、お客さまにも課題解決のためにどんどん活用していただき、その中で新たな需要を掘り起こしていければと思っています。

### Acuity Ultra 製品データ

超高画質と高生産性を同時に実現したハイエンドタイプのロールプリンター。3.2m幅と5m幅の2モデルをラインアップ。大型の屋外サインから、高精細な表現が求められる店舗内ツールまで幅広く活用できます。

※QRコードより、「Acuity Ultra」の詳細情報をご覧ください。



### 担当だより

大阪支社 営業部 販売一課  
高谷 奨一



高い品質と幅広いメディアへの対応力を強みにしていらっしゃるJVIS様にAcuity Ultraをご導入いただきました。ご不便をおかけするごもありましたが、今後も万全のサポート体制で、JVIS様の新たな展開に貢献できる提案を行なってまいります。